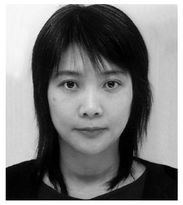
青木 栄里香（37）栃木県　会社員

「勇気と感動を頂きました。」

主に炊き出しと物資の調達を行いました。当初は物資も少なく、十分な支援が出来なかったことが今でも後悔でなりません。しかし時間の経過と共に次々と支援物資を送って下さった支援者の方々に感謝申し上げます。また、自分も被災しているのに差し入れして頂いた方、炊き出しを進んで手伝ってくれた石巻商業高校に避難された方々、段々と元気になっていく東北の方々の姿に本当に勇気と感動を頂きました。最後にこのような貴重な体験をさせていただきましたSSERにも感謝申し上げます。一日も早く東北の方々に平穏な日常が戻るよう、これからも支援して行きたいと思います。



明神 佐知（41）高知県　公務員

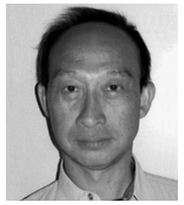
「人間の生きる強さを感じました。」

3月末から約一週間、高知より参加しました。被災地を実際に自分の目で見ると、余りにも凄まじく仮想空間にいるようでした。炊き出し等の支援に参加させていただいた中で、被災者の方々から「まだ足りていない他の方にまわしてあげて。」や「ありがとう、大変ねえ。」と言って頂き自分達が大変でしんどい状況でも他の人を思う気持ちにこちらが励まされ、また辛いけれど皆笑顔で頑張っている姿に人間の生きる強さを感じました。自衛隊の支援物資基地には日本各地や世界各地からの物が集まり、ボランティアの方も各地から沢山集まっており、皆がこの災害からの復興を願っている事を感じました。被災地の一日も早い復興を祈っております。

榛葉 靖久（43）長野県　団体職員

「“何ができるのか?”ということよりも“何かしよう!手伝おう”と」

3･11のあの日以降様々な映像を目の辺りにするにつけ、自分でも何か手伝えることは無いか?という思いが高まっていた矢先、SSERが災害支援活に向かうということで、縁もあり参加させてもらいました。不器用な自分に何ができるのか?という不安と共に始まった1週間でしたが、「何ができるのか?」ということよりも「何かしよう!手伝おう」ということが大事なのだと思いました。



三ヶ尻 俊雄（52）大分県　公務員

「支援する多くの課題が見えてきました。」

飛び込みで入った被災地は度々雪の舞う中での活動でした。どの程度被災者の支援になったかは分かりませんが、社協等と連携して能力を生かして上手く活動できたとは思う反面、支援する多くの課題が見えてきました。今後の課題は大きいと思います。今は、一日も早い被災地の復興を願いながら、支援に参加された方々に敬意を払うとともに、お世話になったことへお礼申し上げます。

NPO SSERの緊急支援活動にご参加いただいた皆様（順不同）　NPOSSER

山口 昌幸（57）北海道　公務員

「渡波地区･女川町、息を呑む惨状に言葉がでない…。」

4月5日石巻に入った。ほこりと泥をかぶった山積みな家財道具。そして案内してもらった漁港･渡波（わたのは）地区･女川町、息を呑む惨状に言葉がでない･･･。「何かする、何かしなければ」という思いは空回りばかりする、しかし復興に努力する人たちと的確に指示を出すリーダーに勇気をもらい、11日追悼のサイレンを聞きながら復興を祈った。

正井 広昭（52）長野県　団体職員

「肉を大量に仕入れてすぐに来い。」

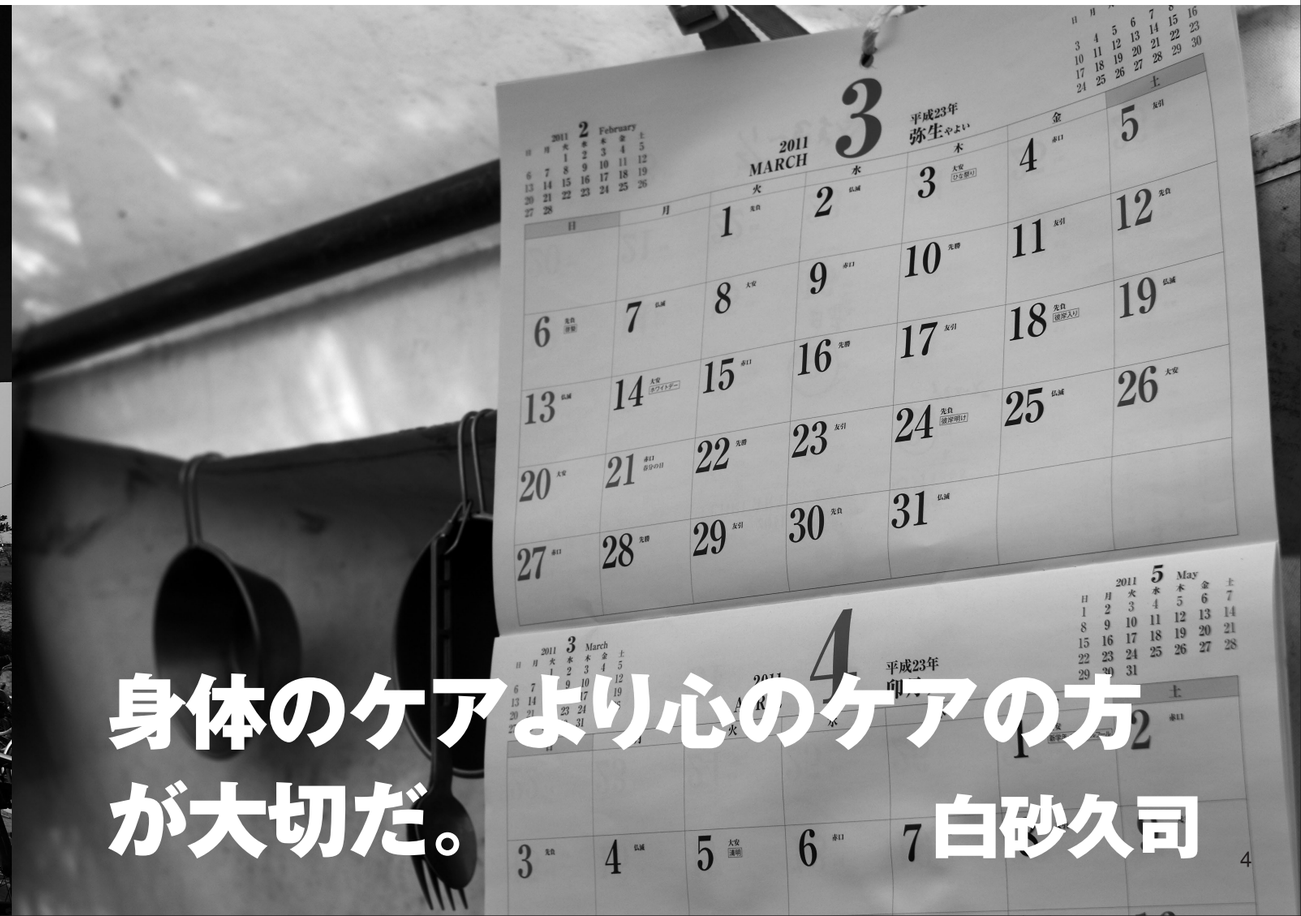
その時、信州南部では、軽い眩暈を感じるようなゆっくりとした揺れが長時間続きました。そして、色々なメディアを通じて、その惨状を知るにつれ、私にも何かできることはないかと思っていた矢先にSSERの活動を知り、早速連絡を取ってみると、既に現地入りしていたカオルさんから、肉を大量に仕入れてすぐに来いとのこと、とても有意義な1週間でした。

白砂 久司（40）兵庫県　柔道整復師

「身体のケアより心のケアの方が大切だ。」

女川総合体育館で3日間マッサージ活動をしました。避難所生活も3ヶ月ということで身体のコリはもちろんでしたが、心の傷に悩んでいる方が多かったのに驚きました。身体のケアより心のケアの方が大切だと感じました。今回の活動を通じていろいろと考え、学ばせて頂きました。

枚田 正治（46）
兵庫県　会社員

「今回の活動の経験は何より自分の貴重な財産になった。」

初めての災害ボランティアという事もあり、始め聞いたときは正直どのような心構えで参加すべきか良く分からない気持ちでした。震災から日が経つにつれて、私も阪神大震災で被災した経験を持っているので震災地の事を思うと居ても立っても居られない心境だった為、とにかく直接自分の目で現実を見て考えて自分が現地で出来る事をやるしかないと思い、災害ボランティア活動に名乗りを上げた次第です。現地入りしてみると朝晩の気温は氷点下に冷え込み、普段から野外で活動していない者にとってはモチベーションを保ち続けられないほどの環境だと感じました。幸い現地メンバーは皆野外活動のプロのような人ばかりで、復興に向けて一致団結する仲間達は最後まで何よりも心の支えになってくれました。炊き出しに実際に行った家の方々から「本当にありがとう」と感謝の言葉を頂けて大きな力になったのも事実です。でも私の口からは最後まで「頑張って下さい」とは言えませんでした。頑張るには、あまりにも被害が甚大だったからです･･･。口には出しませんでしたが「生き続けて下さい」と心の中で言い続けたのが実際の気持ちでした。あと現地において石巻の災害ボランティアセンターに全国から集まったスタッフとボランティア参加者との間に言葉では表しにくい一体感のようなものがあり、過酷な生活環境にも負けずに全力で復興に向けて作業を行っている姿を目にして「まだまだ、日本も捨てたもんじゃないな」と強く感動しました。今回の活動の経験は何より自分の貴重な財産になったと思います。最後に、このチャンスを下さったSSERと仲間達に一言「ありがとう」と送ります。